

1 現行の入試制度導入の背景（R5年度入試から導入）

旧制度（1月の前期選抜、3月の一般選抜）では、早期合格者の学力保障が課題であったことから、スポーツ等に秀でた生徒も含め、すべての生徒が3月まで高い学習意欲を維持し、高校入学以降の学習基盤となる5教科の学力を身に付ける目的として、現行の入試制度が導入された。これに加え、長期にわたる入試業務の負担を軽減する側面もあった。

2 検証委員会設置の背景

（1）県外進学増加

スポーツ等で実績のある有望な中学生が、県外の高校（主に私学）へ進学するケースが増加している現状がある。

（2）公立高校の制度的課題

県外の私立高校が早い段階から生徒へ直接的な働きかけを行い、早期に可否を決定させている一方、県内公立高校は入試時期が3月（特色選抜と一般選抜を同一日に実施）であることから、中学生にとっての心理的負担が課題として指摘されている。

（3）検討への着手

こうした要因分析と対策を講じるため、令和7年度に「スポーツ環境及び高校入試制度の在り方検証委員会」を設置し、審議を進めている。

3 アンケート結果概要

令和7年10月に、県外進学生徒・保護者、県内私立・公立高校の生徒・保護者を対象に調査を実施。

（1）高校選択において重視する点

・部活動を重視して県外に進学した生徒において、特に学校選択に影響を与えたことは、生徒・保護者ともに、「大会等の実績」や「指導者や指導体制」「高校からの勧誘」が高い割合を占めた。

（2）入試制度が与える影響

・秋田県の公立高校の入試時期（3月実施）が高校選択に影響したと回答した県外進学生徒は、31人/139人（22.3%）、保護者 41人/122人（33.6%）であった。

4 検証委員会の実施状況（直近2回）と今後の予定

（1）第3回会議（令和8年1月19日）

主に以下の三つの論点で協議が行われた。

○論点 1：公立高校の入試制度の在り方

受検機会が少なく心理的負担が大きいことへの懸念や、早く進路を決められる選択肢を広げる必要性について意見が交わされた。

○論点 2：生徒募集の柔軟化

スポーツで有望な生徒が、合格が早く決定する県外私立高校へ進学する現状に対し、公立高校の募集要項公表時期（現状は9月以降）を早める提案や、公立高校における具体的な生徒募集のルールについて議論された。

○論点 3：スポーツ環境の充実

「秋田でもできる」と思える魅力的な環境づくりのため、専門的な指導力を持つアスリートの採用枠拡充や、部活動指導員の確保などについて意見が出された。

（2）第4回会議（令和8年5月15日）

主に以下の三つの論点で協議が行われた。

○論点 1：入試制度と県外進学に関連

受検機会を増やし選択肢を広げる柔軟な制度を求める意見がある一方で、入試制度そのものよりも県外私学の早期勧誘が進路選択に大きく影響しているとの見方も示された。また、現行の一般選抜と特色選抜の仕組み等について、生徒や保護者に十分に伝わっていないのではないかという意見も出された。

○論点 2：入試制度及び生徒募集の在り方

県外私学との間に大きな差があり、不利になっている状況を改善するためにはルールの見直しが必要であるという意見がある一方で、合否が確約できない公立高校の立場で、早期の段階から勧誘活動を行うことに慎重な意見もあった。

○論点 3：スポーツ環境の充実に向けた具体的な取組

教員の負担軽減と指導体制強化のため、外部指導者の導入拡充が強く求められた。また、県内の充実した施設や、部活動の取組についての情報発信、指導者間の連携強化、魅力的な環境づくり等について提案があった。

（3）今後のスケジュール

- ・ 7月中旬 ：第5回検証委員会を開催予定。これまでの議論や課題を集約。
- ・ 7月末 ：検証委員会としての報告書を提出（公表）予定。
- ・ 提出後 ：報告書の内容を踏まえた検討。